

2 熊本県庁

日 時	平成20年8月21日(木) 13時~16時
場 所	熊本県庁(熊本市水前寺6-18-1)
出席者	懇話会委員 12人

(1) 概要説明

昭和42年3月に、熊本市桜町から同市水前寺へ新築移転

(旧県庁舎から移転先までは、直線距離で約4km)

平成9年10月に、新行政棟と警察棟を新築、建設事業費約302億円

平成12年1月から本館の耐震改修工事实施(平成14年9月完了)

工事費約60億円(電気及び設備工事費を除く。)

県庁舎の概要

区 分	建設時期	延べ床面積	構 造
行政棟(本館)	昭和42年	38,592m ²	SRC造、地下2階、地上13階 平成11~14年度耐震改修
新行政棟	平成9年	32,475m ²	SRC造、地下1階・地上10階
議 会 棟	昭和42年 昭和57年	8,858m ²	SRC造、地上3階
警 察 棟	平成9年	25,652m ²	SRC造、地下1階・地上10階
計		105,577m ²	

SRC造：鉄骨鉄筋コンクリート造

敷地面積

約97,700m²

特記事項

(ア) 庁舎整備の検討の経緯

昭和42年	3月	現在地に行政棟本館完成
昭和54年	6月	県議会で新庁舎(増築)の建設を促す意見
昭和55年	4月	庁内筆頭課長会議で検討開始
昭和61年	2月	「新庁舎建設準備委員会」設置
平成 3年		「新庁舎建設懇話会」設置
平成 4年	3月	「新県庁ビル建設に係る基本構想」策定 新庁舎の建設と本館の改修を実施
	9月	「新県庁舎建設に係る基本計画」策定
平成 6年	10月	新庁舎建設工事着工
平成 9年	10月	新庁舎完成

(1) 行政棟本館の改修工事

耐震診断の実施

平成 7 年度 改修基本計画策定、耐震診断実施

・主な課題

建物の老朽化、現行基準に適合しない建築物、防災拠点としての機能確保、高度情報化への対応、執務環境の改善、高齢者・身障者等への対応

改修工事の概要

地階から 2 階まで、及び 3 階から 1 3 階までを 5 期に分けた 6 ブロックの工事を実施

・工事内容

耐震改修：耐震ブレース、耐震壁の設置

耐震改修のほか、外部改修(サッシ、屋上防水など)及び内部改修(床 O A 化、壁・天井仕上げなど)、ユニバーサルデザイン改修(スロープ、授乳室設置など)の大規模改修を実施

・工 期 平成 1 2 年 1 月～平成 1 4 年 9 月

・工事費 約 6 0 億円

I s 値

・改修前 必要な I s 値に対して、最小で 8 3 % 程度

・改修後 必要な I s 値の 1.2 5 倍以上を確保

執務室への影響

耐震ブレース、耐震壁とも改修後の執務スペースへの影響はなし

(基本的に、改修前の壁の位置に設置)

(ウ) 新館の重要度係数について

- ・新館は、昭和 6 2 年に制定された「官庁施設の総合耐震計画標準」による Ⅱ 類(重要度係数 1. 2) を採用して設計した。
- ・平成 8 年に制定された「官庁施設の総合耐震計画基準」による Ⅱ 類の重要度係数は 1. 5 である。
- ・昭和 6 2 年の基準の Ⅱ 類の重要度係数 1. 2 は呼び名で、耐震性能の割増率には幅を持たせてあり(1. 2 ~ 1. 9)、平成 8 年の基準の Ⅱ 類と同程度の耐震性能である。

(2) 庁舎視察

行政棟

耐震ブレース・耐震壁、防災センター(災害対策本部室)、執務室、大会議室、県民サロン、情報プラザ、食堂、授乳室、オストメイトトイレ など

議会棟

議場、全員協議会室、常任委員会室

警察棟

交通管制センター、通信指令室

(3) 質疑応答

委員 今建設するとしたならば、どのようなところに工夫すべきと思うか。

熊本 空調設備について、室内温度にばらつきが出たり、残業時間に空調をしてほしいという要望がある。本館は職員による管理、新館は委託により管理を行っているが、こまめな管理ができない。

委員 移転や新館建設に対する県民の反応はどうか。

熊本 敷地面積の狭さや、将来性を考えて移転した。反対はあったが、大きなものはなかった。町の中心が水前寺の方に移りつつある時期だった。跡地にはバスターミナルが建設された。

市役所の建替え時には、移転か現地建替えで議論があり、結果的に現地建替えになった。

委員 耐震改修時には借り上げ庁舎はあったのか。事務に支障はなかったか。

熊本 新館を利用したため、借り上げ庁舎はなかった。執務室を頻繁に移動したため、負担が大きく、来庁者の戸惑いも大きかった。執務しながらの改修のため、騒音や施工業者の出入りが問題だった。

委員 新庁舎の規模の算定基礎はあるのか。

熊本 国の面積基準による積み上げをベースに、他県の事例も参考にして積み上げた面積から本館の面積を差し引いた。

委員 新庁舎の問題点はあるか。

熊本 上品な色遣いにしたため、サイン計画等が目立たない。ユニバーサルデザインの考え方で、後で誘導ブロックを黄色に塗り替えた。

委員 工事の事業手法を教えてほしい。

熊本 設計は指名プロポーザルで、建設工事は指名競争入札で行った。

委員 懇話会と特別委員会の関係はどのようになっているのか。

委員 基本構想策定時の懇話会はどのようなものだったか。

熊本 あまり時間はかけていない。基本構想は簡単なペーパーだった。

委員 本館の耐震改修で、十分な性能が確保されたと考えているか。

熊本 工事費の60億円には、耐震改修費だけでなく、他の改修費も含まれている。SRC（鉄骨鉄筋コンクリート）造で、そもそも粘り強い建物であり、庁舎としての性能は確保されている。

委員 働きながら子育てをする人への配慮として、授乳室や男性トイレへのベビーベッドの設置を行っているか。

熊本 授乳室、オストメイトトイレ、多機能トイレを設置している。

委員 授乳室は職員からの声があったのか。職員の利用状況はどうなっているか。

熊本 県としてユニバーサルデザインを推進しており、職員からの声ではない。職員の利用状況は把握していない。

委員 移転に際しての職員組合との協議による駐車場確保の状況はどうなっているのか。

熊本 職員駐車場の使用について、当初は通勤距離を無制限にしていたが、新館建設後、通勤距離を9.2 km以上にしている。

委員 なぜ耐震改修を実施したのか。改修する価値があったからなのか。

熊本県は桑畑を買収して広い敷地を確保し、1ヶ所にまとまっている。長崎は土地に余裕がなく、改修する価値がないため、熊本方式は長崎には当てはまらないような感じがするが、どう思うか。

熊本 平成9年にはなぜ100億円もかけて改修するのかという意見もあったが、当時はまだバブルの勢いがあった。現在とは状況が異なる。

委員 跡地の処分はどのようにしたのか。

熊本 売却した。

熊本県庁



アプローチ



本館



耐震改修補強プレス



警察本部・新館



エントランスホール(本館)



地下講堂(本館)



情報連絡室（新館）



災害対策本部室（新館）



授乳室（新館）



オストメイトトイレ（新館）



執務室（本館）



交通管制センター（警察本部）